令和４年度　岩手県生涯学習推進研究発表会

社会教育におけるＩＣＴ活用のあり方に関する研究

発表者
岩手県立生涯学習推進センター
社会教育主事　高橋　啓

内容

研究の概要

１年次の研究から

研修の実施

事例紹介

まとめ

研究の概要

ICT機器が普及

（PC、タブレット、スマートフォン・・・）

↓

社会教育の現場でも活用できないか

研究の概要

- 年次計画
  - ICTと社会教育の関わりの政策的動向を明らかにし、取り組むべき課題について整理（１年次）
  - アンケート調査を行い、市町村の社会教育におけるICT活用の実態について分析・考察（１年次）
  - ICTの活用について技術講習や事業を展開するための手法について研修を行い、周知（２年次）
  - 全国の社会教育現場におけるICT活用の先進的な事例を調査する。（２年次）

１年次の研究から

今後の課題（アンケート結果より）

- ネットワークインフラの整備

  Wi-Fi環境が５割とまだ整備途上

- 機器の整備

  配信に必要な機材は何か

- 人材の育成

  ネットワーク環境や機材の管理・運用などの人材を育成

  ICTを活用した企画の立案できる人材の育成

１年次の研究から

ICT機器の活用にはそれなりの知識と技術が必要

職員対象の研修実施が第一

- オンライン配信についての技術向上
- 施設設備改善の計画ができる知識

ICTを活用した社会教育事業の推進方策について

令和３年,全国都道府県教育長協議会第２部会

今後課題とされるもの

- インターネットに接続できる環境の整備
- 職員配置・資質向上

その一方で、施設職員対象の研修を実施しているとの回答は24.4%と低い

課題が一年次のアンケートと概ね一致

２年次の研究

- ICTの活用についての研修
  - 研修会実施による職員のスキルアップ
  - マニュアルの作成
- ICTを活用した先進的事例の紹介

研修の実施

ICTの活用

↓

オンライン配信

オンライン配信に必要なスキルはその他の活用方法とも共通

→**オンライン配信を想定したマニュアル作成と研修会の実施**

研修の実施

ICTスキルアップ研修講座①

令和４年６月20日、22日、27日

技術面の内容を踏まえた研修

ICTスキルアップ研修講座③

令和４年10月11日、12日、14日

事業企画の進め方を踏まえた研修

研修の実施

オンライン配信時のPCの操作

→通常業務時とは別の使い方になる

新たに使い方を学ぶ必要がある

負担軽減のために

統一された操作環境の提供

することができないか？

研修の実施

統一された操作環境の提供

OBS
Open Broadcaster Software®

OBS Studio の紹介

研修の実施

OBS Studio とは

ビデオ録画とライブ配信を行うことができるソフトウェア

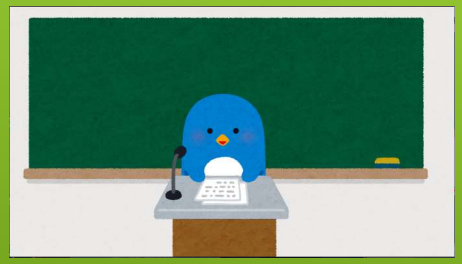
- ライブ配信に使用
- Web会議システムで複数の映像切り替えに使用
- サテライト会場への配信に使用
- 録画装置として使用（オンデマンド配信に利用）

研修の実施

基本画面

OBS Studio

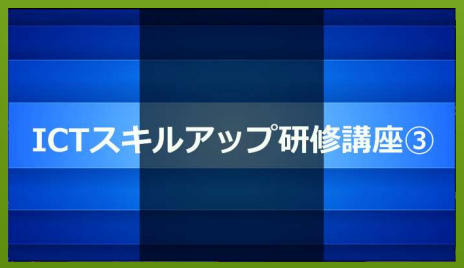
研修の実施



司会者カメラ

講師カメラ

講師スライド



静止画

使用する映像
（ソース）

OBS Studio

研修の実施

OBS Studio

講師スライド

＋

講師カメラ

シーンの作成
(クロマキー合成)

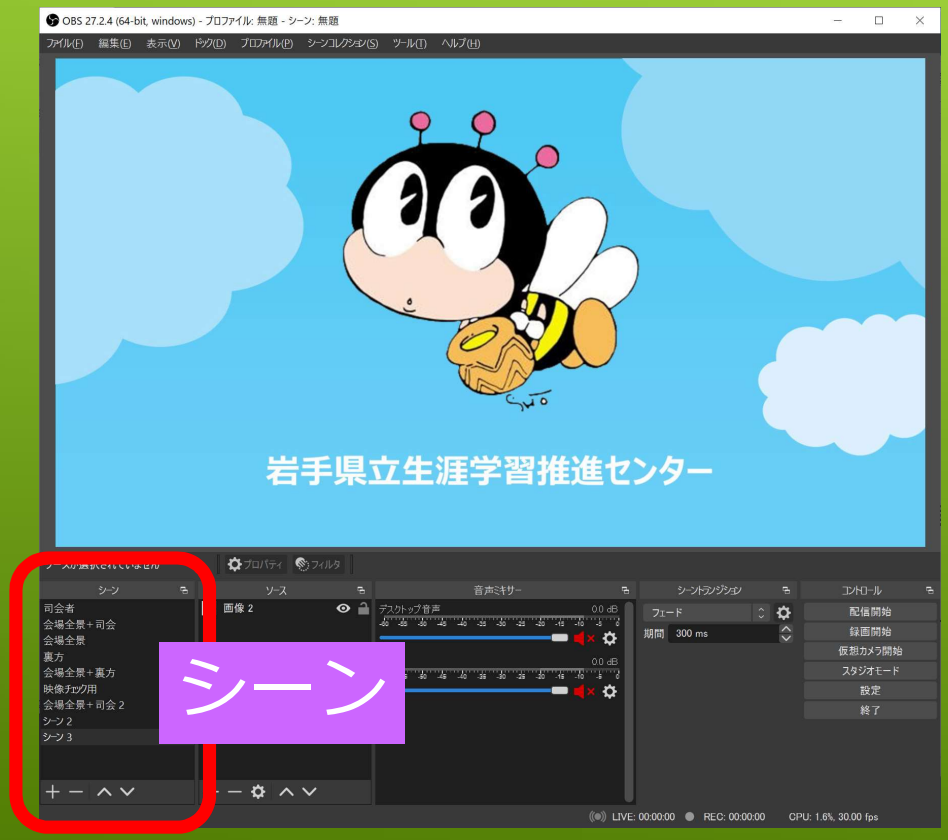
研修の実施

OBS Studio

マルチビュー画面

研修の実施

基本画面



OBS Studio

研修の実施

技術面の内容

・オンライン配信を行う際のネットワーク環境
　（有線接続、Wi-Fi接続、LTE接続）
・オンライン配信に使用する機材について
　（カメラ、キャプチャ装置、
　オーディオインターフェース）
・通信環境の確認方法
・機材の設営方法

研修の実施

事業企画面の内容

・情報発信に関するガイドラインについて
・著作権、肖像権について
・企画時点での進め方（参集事業と比較して）
・運営（本番）時の進め方

研修の実施

研修を受講した感想

- （OBSについて）初めて知り、自由度が高く便利なものだと感じた
- 映像配信中の画像の切り替えが簡単にできることがわかり、今後活用してみたい
- 普段からYouTubeで目にする動画配信の進行のしかたを学ぶことができ、非常に興味深かった
- 実技では、やってみると困ったことが次々と起きて実践のトラブルシューティングの参考になった

事例の紹介

遠野市の取り組み

さいたま市の取り組み

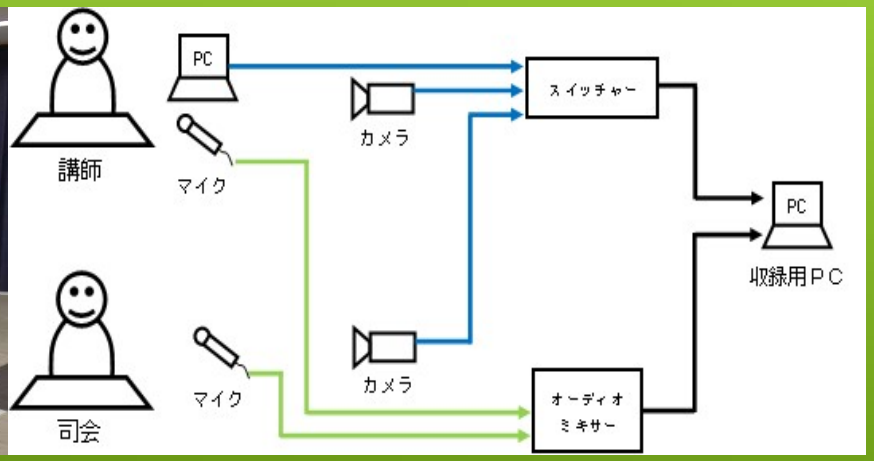
事例の紹介

遠野市の取り組み

- 学習用の動画を作成し、市のWebサイト上で公開
- 担当者が「ICTスキルアップ研修講座」を受講
- 動画作成に挑戦

２年次の研究　事例の紹介

遠野市の取り組み



オンラインの有効性を認識、取り組み

事例の紹介

さいたま市の取り組み （人口約134万人、岩手県は約118万人）

- コロナ禍において切れ目ない学習環境の提供を目的にオンラインコンテンツを作成（動画、pdf）
- 「ｅ公民館」として各公民館の作成したコンテンツを一元化、カテゴリ分けして必要なコンテンツを見つけやすくして公開

事例の紹介

さいたま市「ｅ公民館」

学習コンテンツを集約、学習者が関連したコンテンツを検索しやすい環境を構築

↓

岩手県全体で同様にできないか

まとめ

「オンラインによる学び」と
「対面による学び」の組み合わせ

第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（令和3年9月）

「全ての個人にデジタルリテラシー」
「ＩＣＴを活用できる能力」

第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（令和4年8月）

まとめ

現在、学校では1人1台端末を活用した情報活用能力の育成に取り組んでいる

すでに学校を卒業した人

情報活用能力育成するための学びの場がない

デジタル社会の進展に取り残されないようにするための学習機会の充実

➡ 社会教育に求められている

まとめ

１年次のアンケート調査により明らかになった課題

① 職員のスキルアップ（技術力、企画力、作成力）
② 高速通信回線の整備
③ 機材の充実
④ 学習コンテンツの充実
⑤ 学習者のICT活用スキル育成

まとめ

課題の解決に向けて

① 職員のスキルアップ（技術力、企画力、作成力）

② 高速通信回線の整備

③ 機材の充実

今年度「ICTスキルアップ研修講座」として、研修の機会とマニュアルの作成を行い、今後市町村の担当職員がICT活用スキルを身に着けるために学ぶべきことを形とした。

まとめ

課題の解決に向けて

④　学習コンテンツの充実

「いつでもどこでも学べる環境」
→学習のためのコンテンツを充実

学習コンテンツの公開の仕方も工夫する必要
　　学習するためのコンテンツを一元化、利用者が探しやすい仕組みづくり

コンテンツ作成を通して「人づくり」「つながりづくり」

まとめ

課題の解決に向けて

⑤　学習者のICT活用スキル育成

デジタル・ディバイド対策
→今後の重要な課題

社会教育が担うべき重要な役割

まとめ

『ネットで調べる』はすでに当たり前

インターネット上の情報は広く知識を求める有効な手段で、知識を得る第一歩となっている。

言い換えれば、インターネットは学びの１歩目の手段と成り得ているのである。

社会教育においても利用していくべき

まとめ

研究の成果

- ＩＣＴ活用促進に向けた人材育成の研修を実施
- オンライン配信実施のマニュアルを作成
- オンライン配信及びコンテンツ作成のための操作環境としてのソフトウェアを紹介
- オンライン上での学習コンテンツの提供方法の知見を得た

まとめ

今後の課題

- オンライン上のコンテンツを充実
- 変わりゆくネット環境への対応に向け、情報の継続的な提供の必要性
- デジタル・ディバイド解消に向けた取り組み